

第1回人吉市復興計画策定委員会 議事録（要旨）

日時：R2.11.2 14:00～16:00

場所：保健センター

次第	発言者	内容
2 市長挨拶	市長	みなさま、こんにちは。 この度は、人吉市復興計画策定員をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。また、お忙しい中、第1回人吉市復興計画策定委員会にご出席いただきましてありがとうございます。 皆様方におかれましては、それぞれのお立場で本地域の復旧・復興にご尽力いただいておりますことに対して、改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。 7月4日の災害発生から、やがて4か月が経とうとしております。これまで本市におきましても、そして皆様と一緒にあって、復旧・復興に取り組んできたところでございます。 現状を簡単に説明させていただきますと、避難所に関しましては、スポーツパレスの一カ所に集約をさせていただきまして、避難者数が、週末の段階で168名でございます。また、ホテル避難所に61名の方が避難されております。仮設住宅に関しましては、380戸の建設予定です。先週までに144戸建設が完了しておりまして、今週中には加えて149戸建設予定でございます。避難所に避難されております方々、我々も年越しはしっかりと住まいを確保した中で是非送っていただきたいとの想いで、今、後押しを進めている所でございます。 また、10月30日に地域支え合いセンター、人吉市の方から社協に委託をしておりますが、開所をさせていただきました。住む場所が変わったりとか、他の地域からお越しになったりと、さまざまに違う環境で生活される方が多数いらっしゃると思いますので、しっかりと社協の方でそういう方々を支えていくために開所させていただいているところでございます。 なりわいの再建におきましても、中小企業者900件ぐらいございます。そのうち300件ほどご相談にお越しになっておりますが、50件がなりわいの補助金の申請、200件程度が持続化の補助金の申請といった状況になっているところでございます。ただ、まだまだなりわいに対しましても、そして住まいの再建につきましても迷っていらっしゃる方、そういう方もいられます。また、同じ所に住めるのか、また同じ場所で商売ができるのだろうか、そういったところについて不安をもっている方もいらっしゃるようでございます。本市と

		いたしましても、しっかりとそういう方々に寄り添って復旧・復興のお手伝いをしてまいりたいという風に思います。 同時に、今後のまちの在り方について、どうするのだという話があちらこちらから上がっております。本市におきましては、4月から第6次の総合計画に沿って、市政運営を行っているところでございます。水害に遭ったからと言って本地域の価値が失われるものではないと思っておりますし、その総合計画の中で語っております理念が揺らぐことはないと思っております。基本は第6次の総合計画に沿って、市政運営をするものではありませんが、水害に遭ったことによりまして、その前提が大きく変わったりとか、新たに行うべきことが出来たりとか、さまざまに状況が変わっている所でございます。水害前よりも水害後の方がいいまちを作ろうと、そのまちづくりの道しるべとなるものがこの復興計画だという風に考えております。これまでも問題・課題が多々あったという風に思いますが、それまでの問題・課題も一緒になって、よりよいまちづくりを進めていくために、皆様方からそれぞれのお立場でご意見を賜りたいと存じます。 まだまだ復旧道半ばでございますが、皆様方と一緒に力を合わせて、水害前よりも水害後の方がいいまちになるように我々も取り組みを進めてまいりますので、御理解と御協力を賜りますようお願いを申し上げます、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。
4 委員長、副委員長（職務代理者）の選出	事務局	人吉市復興計画策定委員会規則第5条第2項により、委員長は互選となっております。どなたかご推薦はありませんか。
	一同	意見無し
	事務局	ご意見がないようですので、事務局案を申し上げてもよろしいでしょうか。
	一同	はい。
	事務局	案といたしまして、熊本大学の柿本竜治先生に委員長をお願いしたいと存じます。ご賛同いただけましたら拍手の方をお願いします。
	一同	拍手
	事務局	次に副委員長の選出でございますが、人吉市復興計画策定委員会規則第5条第4項により、委員長から副委員長のご氏名をお願いします。
	柿本委員長	それでは、私の方からご氏名させていただきます。北委員のほうにお願いしたいと思います。
	事務局	ただいま選出頂きました、委員長、副委員長に一言ずつご挨拶を頂

		きたいと思います。
	柿本委員長	みなさま、こんにちは。 熊本大学の柿本と申します。おそらく初めてお会いする方々が多いと思います。 私は専門が土木の方、土木の中でも計画を立てるのを専門でやっております。今回の人吉市復興計画策定ということでいろんな計画を立てていくわけですが、私の分野でいくと道路だったりとか、河川の改修であったりとか、社会基盤の整備の計画を立てることはすごく時間がかかる。災害に遭われた方は、災害に遭った次の日から日々の生活があります。ここには時間的な乖離が生じてきます。こういったものを作っていくためには、いろんな社会基盤の整理のスパンと、日々の生活の乖離。この辺をいかに上手く埋めていけるか。みなさまの忌憚のないご意見をよろしくお願いします。
	北副委員長	みなさま、こんにちは。 人吉温泉観光協会の北昌二郎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。 観光協会からこちらのほうに参加しているのですが、観光協会は203事業所で構成されております。そのうち134事業所が今回被災をしております。60%以上の会員様が被災をしたというような状況でございます。施設は、補助金あたりでなんとかなるのですが、コロナ禍で4月から営業自粛をしていた中に、さらに7月に水害に遭いまして、ほんとに皆様方は大変な想いをされております。収入がないというのが一番の問題でして、生活の安定という面でお力になればいいかなという風に考えている所でございます。微力ではございますけれども、一生懸命頑張りたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いします。
5 人吉市復興計画策定の諮問	市長	諮問書読み上げ
6 議 事		
(1) 人吉市復興計画策定スケジュール等について	事務局	資料2の7ページ説明
(2) 令和2年7月豪雨に係る被害状況及び人吉市の対応について	防災安全課長	資料1説明
	柿本委員長	何かご質問は。
	内田委員	在宅避難者の対応状況について教えて欲しい。
	福祉政策部	発災直後に、保健センターや熊本県の保健師により高齢者は把握し

	長	ていた。一般の方については、先月 10 月に民間の会社に委託をし、調査を行っている。正確な把握はまだできていない。
	沼田委員	災害ボランティアで人手が足りないと聞いていたのですが、半分ほどキャンセルがあるが。
	松岡委員	私たちがボランティアの運営を行っていますのでお答えします。7 月初めごろに私たちの家にも入って欲しいというニーズが沢山あった。その時にいっぺんには行けないのでお待ちいただきながら、順次お家には入っていった。その間に家族とか親戚とか職場の仲間とか民間のボランティアとかの方々が手伝っていただいて、私たちボランティアセンターが行く前に終了したというところがかかり出てきた。このキャンセルの主なものはこのような方たちです。
	佐伯委員	ボランティアセンターの開設期限について、いつまでするというのは決まっているのでしょうか。
	松岡委員	4 か月活動してきたところですけども、まだまだニーズはある。私たちの手元に届いていない潜在的なニーズ、高齢者の方や市外に避難しておられる方のニーズが届いていない。その辺りの掘り起こしを行いながら、活動してまいります。11 月も予定通りやっていく。いつまで続けるかという最終的な期限は未定です。
(3) 人吉市復興基本方針について	事務局	資料 2 説明
	柿本委員長	何かご質問は。
	西委員	コロナ禍という対策についても、基本方針の中にいれていただければというご提案です。
	事務局	そのような観点も含めまして、文面については検討させていただきます。
(4) 意見交換	柿本委員長	このような基本方針が立てられて、3 つの柱があり、具体的な施策を事務局では作られている。これに係るようなご意見を頂ければと思います。1 人 2 分ぐらいでまとめてお話をいただければと思います。
	岡本委員	PTA 連絡協議会の立場もありまして、子供たちの事にも目を向けていただきたいということが一番です。暮らしの安定、お仕事の安定があってこそその子供達の生活の安定、心の安定があるのですけれども。被災しているお子さんも、被災していないお子さんもとても頑張っています。今は見せないけれども、傷ついている、我慢している子供たちはたくさんいると思います。 人吉を作っていくためには子どもたちの力は必要です。高校を卒業したらほとんどのお子さんは人吉を離れると思います。そのあとに帰ってきてくれるか、住み続けてくれるかどうかで人吉の存続もか

		かってくると思います。
	岐部委員	私はこの 3 つの柱には賛成いたします。(退出のため) 時間がないので医師会としては、第 2 回の骨子案のときに話したいと思います。
	北副委員長	安心・安全な地域づくりに向けて、商店街をいち早く復興するために商店街の空き店舗を公的資金で借り受けができないかというのを市の方にもご相談をしたところでございます。ホテルも復旧を行っておりますが、開業した場合に、お客様がホテルから外に出たときに商店街が何もないという状況では、複数回来ていただけるような観光地になるだろうかと心配している。スピード感をもって商店街の再生にご努力いただけたらという風に考えている所でございます。
	小高委員	九州産交の代表を務めておりましたので、その縁で参加させていただいております。観光の分野、観光経済の方で専門的なお話が出来たらと思います。コロナ禍で普通に観光が復活しても 7 割ぐらいしか戻ってこないのではと言われている。その中にさらに水害があった街として 7 割として、50%ぐらいしか戻ってこない。地域経済としては、観光はまったくのスランプの状態。人吉市は 120 あれば現状にもどってこられるので、そういうことでお手伝いできればと思っております。マーケットとか日本の観光の動向とか経済の事でこれからご意見を述べさせていただけたらと思います。
	藤沢委員	復興関係の専門をしております、釜石市、西日本災害では宇和島市のアドバイザーをしていた。様々な外部の企業の支援を現地につなげる仕事をしておりまして、人吉市でもそういった取り組みをさせていただく予定としております。専門としましては、まちづくり、コミュニティの再生、経済再生の分野を中心にコメントをさせていただけたらと思います。 柱の 1 つのくらしの再建とコミュニティの再生ですが、今後とくに被災者の支援としての観点では支え合いセンターが取り組んで行かれると思いますけれども、現地の民間の動きも大事になってくる。被災者をより近い立場で支えていく地域の民間の支援団体をいかに支えるかという観点もぜひ加えて頂きたい。 2 番目の地域経済の再生の分野でございますけれども、こちらは大変な状況が続いておられると思いますけれども、雇用調整助成金などで雇用維持されておられると思いますが、来年度はいかに雇用を支えるかが重要になってくるかと思えます。 あと全体的なことでは、復旧に関して住民の皆様がどこまで参画で

		きるか重要なキーワードになる。幾度も議論の場を作り、若い方も参加して議論できるように、復興に関わっているなという感覚を持っていたことが重要。
	内田委員	4 年間西原村の副村長をして 2 年目に被災に遭って、それからこのような復興の活動をしてきたというところです。それ以前は熊本県庁にいまして、まちづくり、商工関係、計画の策定など行ってきましたので行政的なものは対応できます。 コミュニティの再建が非常に重要なことになるとも思います。自治会が将来どのようになるか見据えながら 1 つ 1 つ丁寧な対応をする必要があるという風な気がします。先ほどのなりわいをどうするかという話の中では、人吉は中心商店街になりますので、どのように再生するかは大きな課題かなという風に思っています。どういう風な支援をするかも含めて議論すべきかなと。人吉のよさを壊さないような事業にしないかなんないかなと。家が再建するということと新しいなまちづくりのチャンスの時期、将来のまちづくりに活かしていく長期的なビジョンで事業を展開していけたらいいかなと。
	井上委員	今回の洪水では相良文化 700 年の歴史・文化が一瞬のうちに消えてしまった。私は暗くなり、人吉は危ういのではないかと思いました。友達から文化というものは空気みたいなものだから応援するのは最後になるよと言われた。しかし、熊本古文書レスキュー隊がいち早く人吉にやってまいりまして、泥水に使った古文書を預かっていただきまして再生する活動がありました。青井神社をはじめ、人吉の神様・仏様そういう方たちを助けようという力強いボランティアの力がありませんでした。これに勇気づけられた思いです。 未来の希望につながる復興をしよう、豊かな自然と歴史・文化の魅力を再発進しようという言葉に嬉しさを感じています。前向きな気持ちでこの会に参加しようと思います。
	赤山委員	7 月 4 日の水害では、学校の中では一番大きな被害を受けた学校ではないかなという風に思っております。3 つの柱を見せて頂いて、それぞれ時間的なスパンが違うのかなと思いました。とにかく教育には時間がかかります。幸せな人吉市を創るためには若い子たちの力が絶対に必要だし、その子たちが何十年後活躍していくものですので、よりよい社会を、教育をいかにすべきか。 コロナ禍で新しい生活様式を迫られましたし、新しい教育をいかにするのかということも考えなければいけませんので、IT 機器を使って教育をどうするのか、経済を再生するにも IT 機器は必要になって

		くる。IT を使ったモデル的なまちづくりをしていけたらという風に思っております。
	原委員	3 つの柱で、被災された方の復興が一番大事なと思っております。農家さんの被災されたところ。田畑が土砂でどうしようもない。今年は農作物も全然取れなくて生活も苦しいと言われて、高齢化もだいたい進んでおりまして、農業を続けられないという方もいらっしゃると思います。時間はかかるのですが、少しでも農地の整備も進めていただいて、力強い地域経済の再生もありますが、農協の方もいち早く再開できるような形で協力できればと思っております。
	永田委員	3 本柱で地域経済の再生はもちろん、被災者の暮らしの再建も一番大事なことだとは思いますが、子供ということもぜひ忘れないでいて欲しい。人吉市には 16 園修学前の施設があります。企業型の修学前の施設も 1 つあります。子供たちに残すまちというのを忘れて頂かないように。 今回の水害で課題が 2 つあり、予見できる災害において、園として、子供、保護者、職員の命を守るために、犠牲者を出さないために危険な登園・出勤を避けられればというのが 1 つ課題として意見が出ております。通信が繋がらないことを事前に想定して、保護者や職員にわかるようなルールづくりを考えていけたらと思います。携帯電話を活用した何らかの基準作りをお願いできれば。 もう 1 つの課題は、災害で人吉市に住める場所が急に減りました。住まいを郡部に移すという方もかなりおられました。市民の流出によって子供も減少するのではと心配しております。人吉市はこれまで子育てをしやすいまちと謳ってきているのですが、なかなかはっきりとした強みというのが保護者まで伝わり難かったと思います。今こそ、新しいまちづくりをするにあたって、他の市町村とは違う具体的な子育てしやすいですよというところを是非打ち出して、人口流出に歯止めをかけていきたいと思っております。明るい未来ある人吉市を子供たちに残したいと思っております。
	那須委員	商工会議所におきましては、なりわい再建支援補助金、持続化補助金、持続化補助金につきましては 250 件ほどの申請がっております。商工会議所 3 階でサポートを行っておりまして、なりわいは商工会議所で被災のアンケート調査を実施している所です。なりわい再生補助金申請をするというところが、これまでの件数よりもかなり上回っております。今後、更なるサポートの強化を進めていきたいと思っております。 先ほどの被害状況の報告の中にもありましたが、商工業かなりの方

		が被災されております。宿泊・飲食含めますと約 330 件の事業所が被災されております。人吉市商店街が廃業の所も出てきております。人吉市商店街は、これまでも空き店舗があちこち見受けられたところですが、今回をチャンスととらえて新たな中心商店街の再生を進めていけたらと思っておりますので、他の皆様のお力をお借りして進めていきたいと思っております。あと、駅前の方で仮設商店街が開設されますが、商工会議所の方でも 12 月に九日町の方で仮設商店街の方を開設する予定です。
	西委員	肥後銀行人吉支店も被災しております。駅前支店は 8 月から復旧しているが、人吉支店は 4m ほど水災の影響があり、傷が深くて、来年の 2 月にならないとフルオープンにならないという状況でございます。今後、復興の課題については復興の道筋が出来ていくような店舗づくりと連携体制をやっていく。住宅被害 3, 000 世帯のり災世帯がある事実と商工・観光・農業についても 1, 500 に及ぶ事業者が被災している。ここをどういう風に計画に練りこんで行動していくことが、再建、復興につながっていく。我々、銀行も様々なお客様を抱えている。金融機関も 1 つの団体を作りながらやっていくところも必要かと思っております。この復興計画策定或いは実行に係る中で私自身も皆様からお教えいただきながら実行していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
	松岡委員	災害発生から 6 日後の 7 月 10 日に球磨村と合同の災害ボランティアセンターを立ち上げて、活動を開始してから約 4 か月が経とうとしております。その間に延べ 17, 000 人を超える県民の皆様に参加いただき、1, 700 件を超える現場に向いて活動することができました。多くの皆様にスタッフとしてご協力いただき、また車輛や敷材などをご提供いただきまして、続けてこられた活動であり、この場を借りて感謝とお礼を申し上げます。 私たちがボランティア活動に際し、被災された方々の今後の再建に向けた考え方をお聞きすると、時間の経過とともに現在地で家を修復して済みたいという意向を持つ方が増え続けております。年齢の事、経費負担の事、いろいろ不安があると思いますが、それと共に皆さんが住み慣れた地域コミュニティを離れたくない、そして決して球磨川を嫌いになったわけではないということだと思います。このような方たちを今後災害から守る、安心して住み続けていただくにはどうすればいいのかということです。今回の想定を超えた水害は地球規模の変動がもたらしたものと考えるべきであり、そ

		れが要因であるとすれば、今後いつ、また水害が発生するかわからないし、いろんな河川防災対策を講じても完全に防ぐことはできないと思います。現実的な対策として考えられることはハード面の河川防災対策によって洪水の規模を縮小し、それと並行してソフト面の対策を講じていくことにより、被害を最小限に抑える。すなわち家屋などの物的な被害をできるだけ少なくしながら、人的被害をゼロにするということだと思います。 私たち社協が日ごろ取り組んでいる地域の支え合いや見守り活動を推進する小地域ネットワーク活動、それから生活支援体制整備事業、高齢者を総合的に支援する地域包括ケアシステムなどの構築の取り組みの中で緊急時の助け合い、互助の推進についても早急に取り組んでまいります。最後に私たちが運営しております災害ボランティアセンター、地域支え合いセンターの活動に引き続き強力なご支援ご協力をお願いいたします。
	佐伯委員	3つの柱についてと言われましたが、書いてあることはどれももっともな話なのでこれについて話し合いで深めていく中で決まていくのかなと思います。今まで市の会議に参加させていただきましたけれども、こういう時代ではなかった時には将来こうなって欲しい人吉とゆっくりとビジョンを掲げてましたけれども、今度ばかりは何年後にこうなって欲しいというような呑気なビジョンでは被災した人たちとかまちを再生するためには間に合わないと思うので、この会議では市民の人たちが望む対応や行動を伴う会議だと思いますので、スピード感をもって、責任をもって話し合いに参加したいと思っています。 電話とかが繋がらなかったおかげで、不安がられた方がおられた。列車も通れず、高速が通れなくなったら陸の孤島化してしまう。インフラの整備についてスピード感を持って行っていただきたい。地域経済の再生について、ここまでまちが壊れてしまっていて、市の方で土地を借り上げてやり直す。みんなが癒しに来れるまちをつくとか、城下町の佇まいにして、来てみたいなと思えるような面白いまち、それぞれバラバラにするのではなく、まとまりをもって観光も産業も結びついていくようなやり方ができないのかなと思うところです。 障がい者の方も被災されて不安な中で暮らしておられますので、私たちもサポートしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。
	中野委員	西校区の半数の民生委員が被災した。復興に向けて動き出しており

		ますけれども、大工さんが来られないので、家の修復ができない。地域で進めておりますネットワークも、公民館が被災して集まる場所がなくなってしまった。これからそれをどういう風に進めていこうか、被災していない公民館を借りようか。活動していた高齢者もバラバラになって、住民の把握もこれからの課題です。
	長田委員	林業の立場から少しだけお話をさせていただきます。今回の豪雨災害で多くの山腹崩壊が発生するとともに、林道等の道路にも甚大な被害を受けたところでございます。森林整備におきまして、道路は必要不可欠でございますので早期復旧を願っている所でございます。また、森林整備を行い災害に強い山づくりを目指すことで災害に負けないまちづくりに貢献できたらと思います。
	今井委員	復興への課題と要望としましては、事業者への手助けが出来ればと考えていますけれども、きじ馬の加盟店の半数が被災し、そのうち数店舗の方が閉店を決められ、目途が立っていない店舗もあります。少しずつですが仮店舗や仮設店舗で営業をされています。この方たちのためにも、今後地元以外での商談の場を少しでも手助けをしていただけたらと思います。新規事業者が人吉市で営業したいと思えるような支援の方も考えていただければなと思っております。最後に地域の中で経済が回る仕組みづくりを考えていただきながら、微力ながら参加させていただけたらと思います。
	多喜田委員	私の地区は直接的な被害はなかったのですが、胸川沿いや山間部では被害が発生しました。状況がわからず何もできないもどかしさがありました。消防団として、広報、物資の配布などに従事しましたが、在宅避難されている方の把握ができず、ちゃんと必要な物資が届けられているのかと考えさせられました。何かできないかと日々過ごしてきました。今後また、水害が発生する可能性があり、人吉市に住み続けていくためにも、まずはいち早い避難が出来るように地域の方との連携が必要でないかとも思います。早期避難のお手伝いをする事で被害に遭われる人がでないようにしていければと思っています。
	上村委員	私の分団は西瀬校区、薩摩瀬、相良、宝来、城本と被害が大きかったところであります。発災当時から、防災・減災の活動をしておりましたけれども、水が上がってきからは動けなかったというところでもあります。 私の方から1点お伝えしたいことは、私たち消防団の構成は人吉市民の中から消防団に入っているのですけれども、実際にこの後も人吉市に住み続けることができるのかと、または今離れていらっ

		しゃる方が戻って来られるのかというところがあります。消防団の団員の減少が危惧されていたところ、今後人吉市民の方が少なくなっていくというところでありますと消防団の防災力にも限界にもつながってくる。人吉市が盛り上がっていかないと人吉市民が増えない、消防団に入る人も増えない。ずっと住み続けたい人吉になるようにご協力できたらと思います
	沼田委員	私は、五日町、九日町など街中の消防団の分団長をしています。7月4日は広報活動をやっていたが、あっという間に水が溢れて、避難して、何もできずに誘導ぐらいで、携帯電話も使えなくなって、他の団員と連絡が取れなくなる状況となりました。通信関係の強化を今後していただければと思います。消防団へ配備されている無線機はあまり使えないものなので。 被災した後、ほとんどの団員の家が被災しているので、消防活動ができなかったことが心苦しかったです。 在宅避難者、特に高齢の方、これから寒くなるので心配している。1部屋だけでもいいので、あれば生活できる、暖を取れるという話を聞いて心の残っていたものですから今回言わせてもらいました。
	三宅委員	当日は消防団として避難誘導の広報活動をしておりました。朝方4時には全員出動して、積載車に載って「逃げてください」と広報いたしましたが、いつものとおり逃げられなかったというのが現状です。残念ながら亡くなられたかたも多数いらっしゃいます。やはりどこかで避難のスイッチが入られないと皆さん逃げられませんか。水害は予見ができますので、逃げてくださいと言ったときに、市民の人が逃げただけのようなことを考えて頂きたいと思います。 3本柱の災害に負けないまちづくりというところが基本になってくると思いますので、ここをしたうえでまちづくりをしていただけたらと思います。 それとお願いになりますが、消防団300名ほどいますが、かなりの数人吉市職員の方がはいっておられます。こういう災害が起きた場合に職員の方は災害対策本部、各支部へ貼り付けになってしまって、人数がかなり厳しくなります。人吉市を支えていくのに、消防団は初期対応で重要ですので、周りに消防団に入れる方がいましたら一声かけて頂ければと思います。
	吉田委員	被災前の生活状況に戻れることが一番大事だと思います。それから始まって進展していくと思います。鍛冶屋町に住んでるが、夜は町並みが真っ暗なのです。ゴーストタウンのような街並みです。 被災者の相談をきめ細やかに聞いていただいて、被災者に寄り添っ

		た施策をとっていただいて、私たちも社協に協力していきたいと思っています。
	柿本委員長	全ての皆様からご意見を頂きました。具体的な施策については、市の方で様々な意見から抽出しながら反映していくと思います。今日お聞きした意見を簡単に私の方でまとめさせていただきたいと思っています。 復興の方針の中に入っていなかったものが、子供の教育の事があまり入っていませんでした。何人かの委員の方がおっしゃられていたのですが、将来人吉を創っていくのは子供達であり、教育が重要になってくるかと思っています。この辺も反映して頂きたいなと思います。 それと、災害に負けないまちづくりということで、これからいろんな治水対策等々考えられていきますけれども、お二人の委員からもありましたとおりソフト面の方ですね。ハードだけでやっていてもなかなか人の命は救えないということもありますので、ある程度の治水安全度が決まりましたら、ソフト面の充実。先ほどお話がありましたとおり、なかなか逃げてくれないというのがありますので、地域ごとに防災指針等を立てて、地域ごとに安全度が違ってきますので対応しかたって変わってくると思いますから、地域ごとの防災指針を立てる。どのへんで避難のスイッチが入るかというような施策を創っていかれるか。 それと、今回情報の寸断があった。連絡が取りにくい状況があった。情報のインフラの強化もなかなかやっていかないと難しいでしょう。 力強い地域経済の再生ということで、中心商店街がやられていると、観光の面でも不利になってくる。ここの対策を早急にやっていく必要がある。雇用対策にもつながってきますので、このへんのところはきちんとやっていかなければならないと。 それと、人吉市の場合、歴史とか文化もかなり重要だと思いますので、こういう歴史とか文化もうまく活かして雇用につなげたいと、そういったところにやっていく必要がある。 それと、農地の再生、森林など豊かな自然環境がありますけど、このへんのところもきちんとしたことが必要となってくるでしょう。 あと、地域のコミュニティの再生については、コミュニティセンターや公民館等も被災してなかなか集まることができずに、こういったところも早急にやっていかないと流出等もでてきますので、何らかの形で支援をしていただきたいかなと、そういう施策も必要になったということが分かったかなと思います。

		それと、私の方からは災害に負けないまちづくりで、いかに治水安全度等をあげていっても、災害は起こる。そうすると、これまで住んでいたところに住めなくなるかもしれないということが出てくる。その辺の空間的な安全度をきちんと検証したうえで土地利用をもう一度考え直すのはどっかで必要になのかもしれないという風には感じました。先ほど言われたように、なかなか逃げてくれないので、本当に危ない所には住めないかもしれない、住まない方がいいかもしれないというのが出てくるかもしれない。今後の河川整備で対応できるのか、その辺を見極めながら土地利用等についても考えていて欲しいかなということで私の方でまとめさせていただきます。 以上で意見交換の方は終わらせていただきます。
(5) 次回開催について	柿本委員長	次回開催について事務局より説明をお願いします。
	事務局	11月30日午後を予定している所でございます。場所につきましては、ここを予定しておりますが、またご連絡申し上げます。
(6) その他	柿本委員長	その他について何かございませんか。
	中野委員	消防団の方にお礼を申し上げます。若いお母さんの方が流れ着いてこられたので、すぐに役所と消防署に連絡をしたがつながりませんでした。知り合いの消防団の方へ連絡をしましたら、間もなくラフティングの方に連絡して頂いたみたいで、車も浸かるぐらいの水嵩だったけど、「赤ちゃんはどこですか？」と助けに来てくださり、助けて頂きました。ありがとうございました。
	柿本委員長	これで予定されておりました議事は全て終了いたします。ご協力ありがとうございました。
7 事務連絡		先ほど議事でも上がりましたが、次回の開催は11月30日でございます。